

# Share Happy シェアハピ！

## 【黄金の〇日間を終えて...】

学級が始まり10日が経ちました。最初の3日や1週間は「黄金の〇日間」とよく言われます。これは、子供たちがまだ慣れない環境の中において、良くも悪くも緊張感をもって生活しているおかげで規律等の指導が入りやすいため言われている言葉です。学年によっては、そろそろ子供たちの本来の姿が現れてくる時期かと思います。ここからゴールデンウィークまでで規律が崩れてしまうと、ゴールデンウィーク明けから立て直しに全力を注ぐこととなります。それだけは絶対に避けたい事態ですよ。特に若手の先生方は、自分の学級がこれで大丈夫か心配になってしまうことが多々あると思います。日ごろから周りの先生に自分の学級の様子を話したり、学年の先生方で子供の様子を交流したりできると良いですね。(忙しくてなかなかできないのですが...)

## 【学級経営オセロ論】(若手の先生向け)

さて、この時期の学級経営で気をつけたいことは山ほどあるのですが、若手の先生が全部やろうとするのはなかなか難しいと思います。そこで、葛原が学級経営の序盤で気をつけていたことを一点紹介したいと思います。それが「学級経営オセロ論」です。



オセロでは、盤面の端、もっと言えば四つ角をとるとゲームを有利に進めることができます。学級経営にも同じことが言えると思うのです。学級の子達をぐるっと見まわした時に、あの子と信頼関係を築いておくと、周りの子達の信頼も得られそうだ...！という児童や、あの子と信頼関係が築けないと後々厳しくなりそうだ...という児童がいます。その子達が四つ角や端にあたります。私が具体的にイメージするのは以下のような児童です。

・発言力がある子、物おしせずにクラスを盛り上げてくれる活発な子

(この子たちが「先生が困っているから助けなきゃ」と思うのと「まあどうでも良いか」と思うのでは大きく違います。)

- ・大人に対して不信感を抱いている子
- ・先生や周りの子どもからも注意されがちの子
- ・からかいの対象になりやすい子、人間関係を作ることに課題を抱えている子

(先生が大事にしているものは、基本的に子供も大事にしようと思います。先生が日ごろから大事に接することがいじめの予防になることがあります。)



では、その子達と信頼関係を築くために具体的にどんな行動をすれば良いのでしょうか。私がやっていたのは

- ・良いところを見つけたら一筆箋を渡す(効果絶大。これは全員に渡すようにしていました。)
- ・何気ない会話を心がける(お互いの好きなことについて話すようにしていました)
- ・休み時間一緒に遊ぶ

です。これだけです。

特に、今までの大人の関わりから大人や教員に不信感を抱いていたり、先生について注意されたりしがちな児童については、「黄金の〇日間」で、きっと緊張感をもってがんばっています。たくさん褒めてあげるチャンスです。昨年度大変だったと引き継いでいる子が今日目立たずに過ごしているのであれば、何もしていない状態を褒めてあげて良いくらいです。「よく話聞いているね」「がんばってノート取ってるね」の一言が、その子との良い人間関係を作ってくれるはずですよ。

逆に、絶対にやってはいけないのは**子供に迎合すること**です。わざとらしく褒めたり、他の子よりも明らかに特別扱いをしてしまうと、子供は見抜きます。一筆箋を渡したり、一緒に遊んだりするのは、子供に好かれるためにやるものではありません。甘やかすためにやるのでもありません。むしろ、「それは違うよね」と、キッチリ指導した時に、日ごろから信頼関係を築いている大人の言葉として、子供に響かせるためにやるものだと考えています。

#### 【まとめ】

今回は、今の時期の学級経営で自分が意識していたことを一つ書いてみました。私自身、この時期の人間関係をおろそかにして後で苦しくなった経験が何度かあります。ちょっとした心がけでオセロのゲームのように、少し学級経営が楽になることがあると思うので、参考にしてみてください。

# Share Happy シェアハピ！

## 【一つの分岐点「ゴールデンウィーク明け」】

怒涛の4月も終わりが見えてきました。ついに！ゴールデンウィークが！目の前までやってきましたね！！感染対策に気をつけて気力と体力を回復させましょう。

さて、クラス替えと新しい先生との出会いで緊張感を持って生活していた子供たちも、このゴールデンウィークを境に様子が変わってきます。一度緊張感が途切れることと、周りの環境への「慣れ」から、子供の様子がだらしく思えてきたり、そんな子供たちに先生もイライラしてしまったり…。このタイミングの指導がなあなあになってしまうと「なんだか最近叱ってばかりだなあ」という日々が続いてしまいます。

この時期に限らずですが、私が大事にしている指導の仕方が少しでも参考になればと思い、シェアさせていただきます。

## 【もぐら叩き指導と種まき指導】



二人の先生の指導を例に考えたいと思います。

### A先生の教室移動

「それでは、体育館に移動するので並びましょう。」

(なかなか並ばない子供たち…)

「並ぶのに時間がかかり過ぎです！いつまで話しているんですか！」

(言われて急ぐ子供たち…)

「それでは移動しましょう」

(移動中話し声が聞こえて…)

「なぜ話し声が聞こえるんですか？黙って移動するはずですよ！」

### B先生の教室移動

「それでは、体育館に移動します。1分で並びましょう。並んだら静かに待ちましょう。」(クラスで声をかけてくれそうな児童に)「遅れそうな子がいたら優しく声をかけてあげてね。」

「素晴らしいですね！1分で並ぶことも、静かに待つこともよくできましたね！」

「それでは、体育館まで一言も話さずに移動します。話してしまったらやり直しをします。」

(体育館に着いたら)

「とても静かに移動できましたね！では、帰りは先生は何も言いません。自分たちで静かに帰れると最高ですね！」(帰る時は、リーダー性の高い子にこっそり声かけ)

A先生の指導は、なにか課題を見つけたらそれをその場で叩く「もぐら叩き指導」です。それに対して、B先生は褒めるための種を蒔く指導「種まき指導」です。A先生は子供の課題が見えたり、問題が起こった後に動くため、子供に対して指導が後手になってしまいます。何かが起こる→指導→何かが起こる→指導...のループに陥ってしまいがちです。私自身、「最近なんか叱ってばかりだな...」と思う時はこういった指導になっていることが多いです。



課題が見えて叩いてが続くと、指導する側も疲れてしまいますよね...

B先生は、叱らずに済むように、終わった後に褒められるように、先手の指導をしています。具体的に「ここまでできるようにしましょう」という指導をしたり、先を見通して次の指示まで出したり、こっそり声かけができる子にフォローを頼んだりしています。また、必ず指導したことを評価しています。

種まき指導を意識すると、見通しを持って指導するようになるだけでなく、指導後の見取り(評価、価値づけ)にも目が向きます。学級経営や生徒指導が上手な先生は、もれなく先を見通して種を蒔いています。ゴールデンウィーク明けの分岐点を良い方向に進めるように、葛原が心がけていることを書いてみました。良ければ参考にしてみてください。

# Share Happy シェアハピ！

水泳学習が始まりました。「小さいときから水泳を習っていた」ということで、水泳学習に少しでもお役に立てたら・・・と思い、今年度も微力ながら「泳ぐためのコツ」、「水への恐怖心を軽減する方法」をいくつかご紹介させていただきます。

## 【気づいたら泳いでいた・・・ポイントは息の吐き方】

生後4か月でベビースイミングに通っていたそうです。記憶はありませんが、写真があるので本当だと思います。ベビースイミングでは、母と一緒に水遊びをしていたようです。その後、幼児クラスになると自分だけの練習になり、プールに行くことを強く強く拒絶したそうです。「無理に通わせても水泳が嫌いになる」からと母が区営プールに連れて行って遊びながら泳ぎを教えてくださいました。気づいた時には泳げるようになり、「なんちゃってバタフライ」といいながら4泳法を習得していました。

- ・水泳のネックは、息が苦しくなることからくる恐怖です。
- ・鼻から水が入るあの痛みも水が嫌いになる一因です。(私もこの痛みは嫌いです。)



- ・息をしっかりと吐けば、新しい空気を吸うことができます。
- ・水の中で、「んっ！」と口を閉じたままでは、息が吐けません。



- ・鼻から息を吐くと・・・鼻から水が入りません。
- <ポイント> 陸上では、鼻からでも口からでも吸ったり、吐いたりできます。

水中では、鼻から吐いて、口から吸います。  
(水泳大会の水中カメラの画像で見ると分かります。)

練習方法 ①立ったまま鼻まで潜らせ、口を閉じ、鼻から息を吐かせる。

なぜ、息を吐くのがポイントなのか  
①人は、吸うことは特別意識しませんが、吐く(鼻から吐く)は意識する必要があります。(酸素を換するため)  
②水中または水面で吸うことを意識すると、水を飲んでしまいます。だから、息を吐くことが大切です！

で意識させ

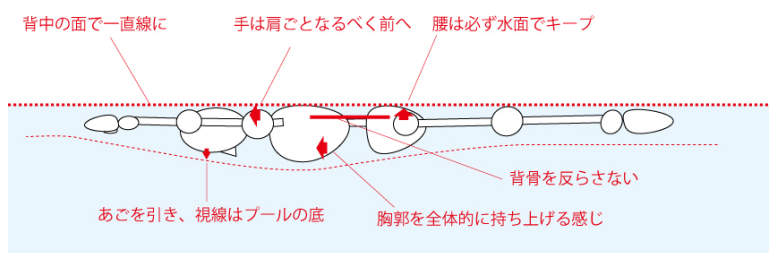


## 【けのびではなく ストリームライン】

全ての泳法の基本は、ストリームラインです。ポイントは右図のとおりです。けのびで「耳を腕で挟む」「頭をしまう」ということが多いですが、正確には、耳の後ろに腕がある感じになります。

浮いた姿勢から立つときは、「両腕を自分の太ももの外側に水をかくように持っていく、両ひざを曲げて足をプールの底に付ける」というコツを教えると、水中でバランスを崩すことを怖がる子は安心できるようです。

## ストリームライン 意識するポイント



# Share Happy シェアハピ！

## 【自主学習のメニュー ～国語・算数・理科・社会編～】

本来、自主学習とは「自分がしたい勉強」や「自分に必要な学習」を決定して行うことで効力を発揮するものです。しかし、まだまだ「学習を自分で決定すること」に慣れてない子供たちは、「何をすればいいんだろう・・・？」という沼にハマりがちです。そこで、そんな困っている子供たちを救えたら！と思い、今回は自主学習のメニュー例を余すことなくシェアさせていただきます。

### 【国語】

- ・読書感想文を書く
- ・作文を書く(テーマを配布)
- ・俳句を写す、俳句の説明をする、俳句をつくる
- ・習った漢字を使って文章を作る
- ・分からない言葉の意味を調べる
- ・同音異義語、対義語、類義語を集める
- ・ことわざ、慣用句の意味や用法を調べる
- ・本の紹介をする
- ・詩を写す、詩を作る
- ・漢字で熟語しりとりをする
- ・新しいことわざを調べる
- ・名言や格言を紹介する
- ・同じ部首の漢字を集める
- ・方言辞典をつくる
- ・物語を創作する など

### 【算数】

- ・教科書の予習、復習をする
- ・テストの間違い直しをする
- ・文章題を自分でつくる
- ・表をグラフにする(グラフを表にする)
- ・鶴亀算、油分け算などのおもしろ計算に取り組む
- ・コンパスや分度器で幾何学模様を描く
- ・教科書の巻末問題に取り組む
- ・計算問題を自分で作る
- ・立体図や展開図を作図する
- ・いろいろな単位を調べる
- ・公式の説明をする

- ・新聞などの表やグラフを写し、読み取ったことを書く など

### 【理科】

- ・生き物図鑑を作る
- ・1つの植物や生物を徹底的に調べる
- ・身近な道具と学習内容を結び付けて解説する
- ・まとめのノートをつくる
- ・天気(雲、気温など)の記録を付ける
- ・身の回りの動植物を採取、観察する
- ・地震や火山などの自然現象を調べる
- ・月の満ち欠けや天体の動きを観察する
- ・風の力、電気の力を利用して工作する
- ・スケッチの練習をする
- ・観察記録をつける
- ・実験の振り返りをする
- ・岩石や化石の図鑑を作る
- ・星や星座の図鑑を作る
- ・物質の状態変化を調べる
- ・薬品、化学物質を調べる
- ・自然科学の偉人を調べる など

### 【社会】

- ・都道府県の特徴(人口や特産品など)を調べる
- ・地図記号を調べる
- ・歴史の偉人を調べる
- ・国旗を調べる
- ・世界遺産を調べる
- ・漁業について調べる
- ・資料集や教科書のグラフや表を読み取る
- ・地域のお店を紹介する
- ・工業について調べる
- ・農業について調べる
- ・世界の国々の紹介をする
- ・警察署、消防署などの公共施設を紹介する
- ・歴史の時代ごとにまとめノートを作る
- ・遺跡や史跡を調べる
- ・日本の地形や名所を調べる
- ・政治の仕組みについて調べる など

今回は、家庭科・音楽・体育・外国語のメニューをご紹介します。

# Share Happy シェアハピ！

## 【自主学習のメニュー ～家庭科・音楽・体育・外国語編～】

前回に引き続き、自主学習のメニュー例をご紹介します。

### 【家庭科】

- ・住みやすい家进行設計する
- ・食品を三大栄養素に分類してみる
- ・バランスの良い朝食メニューを考える
- ・掃除や洗濯をして工夫をまとめる
- ・環境にいい暮らし方を調べる
- ・調理方法について調べる
- ・作った小物などを紹介する
- ・家で料理を作り、工夫したところをまとめる など

### 【音楽】

- ・音楽家の紹介をする
- ・曲の紹介や感想を書く
- ・短いフレーズを作曲する
- ・楽器について調べる
- ・音楽記号を調べる など

### 【体育】

- ・足が速くなる方法について調べる
- ・逆上がりのコツを調べる
- ・体育の試合で勝つための作戦を考えてみる
- ・なわとびの技を紹介する など

### 【外国語】

- ・アルファベットを書く
- ・習った英語表現で短文を書く
- ・英語の挨拶を調べる
- ・海外の挨拶を調べる
- ・英単語でしりとりをする
- ・英語の歌を写す など

次回は、実際に子供たちが考えた自学メニューをご紹介します。



# Share Happy シェアハピ！

## 【仕事の仕方】

突然ですが、問題です！！

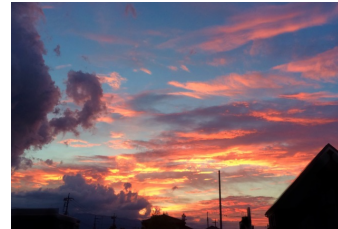
北小学校の就業時間は、何時から何時でしょう？！

正解は……、8:20～16:50です！みなさんは、答えられるまでにどのくらいの時間がかかったでしょうか。「終わって何時だっけ？」と悩んだ方がいないことを祈っています…。

こんなことを言っている私ですが、初任校で働いていた5年間は、“定時”という概念が皆無でした。当たり前のように朝早く来て、夜遅くまで残る…。ここだけの話ですが、残業は毎月80時間以上でした。それを5年間。よく生きていたなと思います。(；・∀・)

そんなこんなで、北小に来てからようやく“定時”という概念をゲットしたのですが(終業時間のみですが…)、定時で帰ると良いことばかりです！

- ①1日が長く感じられる
- ②行きたいところに行ってから、帰宅することができる
- ③好きなテレビを、オンタイムで見ることができる
- ④夕飯をゆっくり食べることができる
- ⑤家族やペット、友達とのふれあいの時間ができる
- ⑥きれいな夕焼けを見ることができる
- ⑦次の日へ向けた元気を蓄えることができる などなど……



(そんなこと分かっているよ…分かっているけどさ、帰りたくても帰れないんだよ…)

こんな心の声が聞こえてきましたので、少しでもお役に立てばと思い、私の仕事の仕方をシェアさせていただきます。私のやり方が1番正しいとは全く思っておりませんし、何なら朝1番に出勤している奴の仕事の仕方なんて…と思われてもしょうがないですが、北小の先生全員が16:45に荷物をまとめ、16:50に帰宅していくという夢✨のためにお話します。これといって特別なものはありませんが、ご了承ください。

### ① 定時に帰るコツは、“定時に帰ること”！

私が定時に帰るきっかけとなった言葉です。意味が分からないという方もいらっしゃると思いますが、この言葉によって最も変わったのは、仕事に対するマインドセットです。

#### 定時に帰ることが決まっている

⇒このままの仕事の仕方だと定時までには終わらせることは無理

⇒今の仕事の仕方を見直さなければならない

⇒どうすれば…？ どうすれば…？ どうすれば間に合うんだ…？

時間が無限にあると思って仕事をしていると、今の仕事の仕方を疑うことなくつつい毎日過ごしてしまいます。ですが、終わりが決まっていると嫌でも知恵を絞らなければなりません。私が完全に朝に仕事を寄せているのは、終わりが決まっているからです。朝は子供を教室で迎えなければならず、リミットが8時前までと決まっているので頭がフル回転します。(もちろん朝の残業をオススメしているわけではありません。)

### ② 放課後はクリエイティブな仕事をしない！

これは、自分に設けているルールです。みなさんも経験したことがあるかと思いますが、1日疲れ果てて、職員室へ戻ってきて…

カチカチ(フォルダをクリック)⇒カチカチ(次のフォルダをクリック)⇒カチカチ(ん？何しようと思ったんだっけ？)

意味もなく、フォルダを開いたり閉じたり...開いたものの何をしようとしていたのかを忘れてたり...。これを私は無限クリックと呼んでいるのですが...( ;▽;)。1日子供達と向き合った後は、相当疲れています。これはある本に書いてあったことなのですが、人間の脳は、起床してから8~10時間経つと、「ほろ酔い状態」とほぼ同じまで機能が低下するそうです。お酒を飲んだ後の脳に、「頑張ってる仕事して！」と命令しても難しいことは容易に想像できます。これ以降、私は朝と放課後に行なう仕事を完全に分類し、放課後に頭を使う仕事(クリエイティブな仕事)はしない！と決めました。



#### 朝:頭を使うクリエイティブな仕事

教材研究、提案文書、頭を使う提出書類の作成(自己評価シート、指導案、懇談会資料、学年通信など)

#### 放課後:頭を使わない仕事

出欠席の入力、テストの点数入力、教室の片付け、今日子供たちを褒めたことを入力(所見用)、簡単なプリント作成、旅行命令簿を書く、力仕事、会計簿 など

ちなみに、テストの丸付け、ノート・宿題・プリントのチェック等は子供達がいる時にすき間時間を使って行なうため、放課後に持ち越さないというルールも作っています。昔は、毎日放課後になると教室にこもってひたすらコメントを書いていたのですが、コメントは週1回に減りました。その代わりに、頑張っている子には直接手渡しでノートを返し、その時に「よく頑張っているね！」と伝えています。これもある本に書いてあったことなのですが、仕事の生産性を高めるために大切なのは、時間を無限大に使うことではなく「無減代」を実行することだそうです。「無くす、減らす、代わりを考える」という意味です。コメントを書くという時間と労力のかかる仕事の代わりに生み出した方法です。

### ③ 心配な仕事は、まず1分やってみる

毎日、大きなものから小さなものまで、絶えず仕事が出現してきます。その時、まず私は以下の2つに振り分けます。

○見通しがもてる仕事:どのくらいの時間で仕上げることができるのかが分かる仕事

○心配な仕事:ほとんど経験がなく、完成までの時間の見通しがもてない仕事

やったことがあり、完成までにどのくらいの時間を要するのかが分かる仕事は心配ありません。その中でも、5分以内に終わることが確定している仕事はその場ですぐに終わらせます(来たらずに打ち返す。卓球のようなイメージです)。問題は、「これどうやってやるの?」という心配が生まれる仕事です。5年目くらいまでは、この類の仕事ばかりでした。1時間以上かかるものかもしれませんし、実は10分で終わるものかもしれません。やらず嫌いをして後回しにするのではなく、まずは1分やってみて、「自分にとってどのくらいの大きさの仕事なのか」を把握しておくことが大切かなと思います。以前、やり方が分からず後回しにした結果、実はめっちゃめっちゃ時間がかかるもので、提出期限を守るために夜遅くまで残業したことがあったので、その教訓を生かしています。

また、個人的な話になりますが、「時間がかかりそうな仕事は、悩んだら即止めて違う仕事にチェンジ」することをオススメします。なぜなら、悩むことはその場でなくてもできるからです。頭に入れておくと、給食中や子供達が読書をしている間などのちょっとした時間にふと考えることができます。そのために、なるべく早く取り掛かることを意識しています。これまたある本に書いてあったのですが、「仕事が遅いのは、能力の差であり、これは仕方がない。でも、取り掛かりが遅いのは、姿勢の差。これは、個人の努力で埋められる。」という言葉を大切にしています。

### 最後に

偉そうなことをたくさんお話してきましたが、私自身もまだまだ模索中です。大切なことは、①自分なりの仕事ルールを確立すること、②教員は忙しいという現状を諦めないことだと思います。みなさんも、③仕事テクニクを持っているかだと思いますので、是非シェアして全員が定時に帰れる職場を目指していきましょう！



# Share Happy シェアハピ！

## 【クラスの自治力】

「今年のクラスは安定しているな」と感じる1つの条件として、「クラスの自治力が高い」ことが挙げられます。裏を返すと、自治力が高いクラスはトラブルが少なく、安定しているように思います。クラスの自治力とは、「自分たちのことを、自分たちで律することができる力」です。私もまだまだ勉強中ですが、今回は自治力を高めるためにクラスで意識していることを3つご紹介します。

### ①トラブルがあった時は、解決後に話を聞く

集団生活をしていると、小さなものから大きなものまで多くのトラブルが起こります。もちろん、大きなトラブルについてはすぐに指導を行います。ほとんどのケースが些細なすれ違い、勘違いです。子供たちからの報告を受けた際に、「自分たちの力で解決してほしい」と思った事案については当事者を呼び、私の前で納得がいくまで話し合わせます。その際、私は全く口出ししません(もちろん話の内容は聞いています)。話し合いが終わると、私は必ず当事者たちに「何があったの?」という内容の確認をし、「解決で大丈夫?」という最終確認をします。全員から「はい。」という言葉が聞けたら、終了という流れです。私からの最後のお話ありません。これを繰り返していくと、「**小さなトラブルであれば、自分たちで解決できる力があるんだ**」「**大変なトラブルだと思ったけれど、ただの勘違いだった**」ということに気付き、結果的に自治力が高まることにつながります。

### ②結果ではなく、動いた過程を褒める

自治力が高まってくると、指示がなくても自分たちの意思で行動することが増えてきます。その際、仮によい結果にならなかったとしても“自分たちの判断で動いた”ということに価値づけしています。**結果を褒めてしまうと、結果がどうなるのか怖くて自己判断ができない子に育ってしまうから**です。

### ③質問に答える時は、あえて抽象的に

今でこそ減りましたが、1学期は毎日質問の嵐でした。答える際に私が意識していたのは、“**抽象的な解答をすること**”です。例えば、1学期に「先生、今着替えていいですか?」「いつ着替えればいいですか?」という質問をたくさん受けました。「いいよ」「今はだめだよ」といったように、質問に対して一つ一つ答えていると、子供たちは自分の頭を使う前に質問をする習慣が身につけてしまいます。なので、私は「授業に影響が出ない時間なら着替えてOK」というあえて抽象的な受け答えをしていました。そのほかにも、「ここ、掃除しますか?」という質問には「掃除の目的は、汚れているところをきれいにする事だね。って考えると、どう?」と答えたり、「並んでいきますか?」という質問には、「そもそも、どうして廊下に並んで移動するのかな?その目的が分かれば、どっちがいいのか判断できるよね!」と答えたりしていました。**悩んだ時に答えを出すための基準を与えることで、次回からは自分たちの判断のもと行動できるようになっていきます。**

子供たちにも伝えましたが、学校生活を送っていて「どうすればいいか全くわからない」という問題には、そう出会いません。たとえ悩んだとしても、友達がいればほとんどの問題は解決できます。**“子供たちが考える機会を教員が奪わないこと”**が、クラスの自治力を高めるための近道だと思っています。

# Share Happy シェアハピ！

## 【クラス戦略・戦術】

今年度も中間地点を折り返しました。心待ちにしている冬休みが目前へと迫り、もう少し頑張ればもっともっとお楽しみのボーナスが・・・！今、仕事が楽しい！という方もいれば、ちょっと疲れた...という方もいるかと思いますが、チーム北小が一丸となって、みんなで素敵な年の瀬を迎えましょう！

さて、以前全体研修でもお伝えしましたが、「11月荒れ」という言葉があるように、11月は学級経営の大きな山場です。私は毎年11月になると、4月に立てた「**クラス戦略**」と「**クラス戦術**」を振り返ります。まずは、戦略と戦術の違いからお話すると・・・

◎戦略:ある目標を達成するために立てる、全体的なプラン

(例)今年はこのようにクラスにしたい！ こんな子を育てたい！ などなど

◎戦術:その目標を達成するために用いる、具体的な手段

(例)気になるあの子が輝ける場を作る！ こんな実践をする！ などなど

一般的にはスポーツで使われている言葉ですが、行き当たりばったりでクラスを経営することが怖い私は、毎年クラス開きから1週間以内にこれらを明確にしています。イメージは、スポーツの監督です。そのために欠かせないのが、児童の情報収集。なので...

① 初めての出会いの前に個票を読み込んだり、元担任の先生と話したりする

② 最初の3日間において、「リーダー性」「ムードメーカー」「人望」「要注意」という4観点をもとに徹底的に児童を観察する

ことをしています。1年間担任をしていた先生だからこそ分かることがありますし、それはこれからクラスを立ち上げる上で大きな武器となります。情報は武器です。また、前情報を大切にしつつも、「自分の目で確かめ、肌で感じることも同じくらい大切です。「この子は、こんな子」と決めつけてしまうと、その後どんなに善い行いをしていたとしても、なかなかそのイメージをアップデートすることが難しくなってしまうからです。ですから、最終的には自分が実際に関わって感じたことを、より大切にしています。ここでのフィーリングを間違わないように、「最初の3日間は1年分働く！」をモットーに全センサーをビンビンに働かせています。もちろん、とてもとても疲れますが、その後の1年間が安泰であるため・・・と割り切って頑張っています。

裏面にて、今年の3-1のクラス戦略・クラス戦術をご紹介します。

**高学年へとつながる“成長の1年”にする！  
自分自身が“毎日楽しい”と思えるように働く！**

【4月】

## クラス戦略

～教師がいなくても大丈夫！自治力と生活力のあるクラス！～  
～朝、保護者が安心して送り出すことができるクラス！～

### クラス戦術①

課題のあった男子児童を、クラスリーダーにする。

⇒3日間観察した結果、人望が厚く友達を惹きつける魅力あり。真面目で明るく、人に流されない女子児童とセットでクラスリーダーをさせる。

### クラス戦術②

生活に関する質問は、1日1人1回。

⇒質問の種類を「生活に関すること」と「勉強に関すること」に分け、前者について回数を制限。自身で考えれば解決できる問題を増やしていく。

### クラス戦術③

ムードメーカーの児童の力を借り、クラスの雰囲気を作る。

⇒ムードメーカーの児童が大きな人望あり。レクを中心に任せたり、誕生日の児童を祝わせたりする。家で「今年のクラス楽しい！」と言ってもらうため。

### クラス戦術④

学級通信を発行し、自身の教育の根拠となる考えを発信する。

⇒コロナ禍ということもあり、学校と家庭の関係性が希薄化している。不信感につながらないように、教育観を発信し、家庭の協力と信頼を得る。

### クラス戦術⑤

「やった・やってない問題」は、自分たちの力で解決させる。

⇒「〇〇されました」「わざと〇〇された」というキーワードが入ったトラブルは、当事者を呼び、納得がいくまで話合わせる。

### クラス戦術⑥

言わなくても分かることは、一貫して指示を出さない。

⇒例えば、テスト前には「机を動かしましょう」と指示を出さないなど、言わなくても分かることは指示を出さず、子供たちが気付くのを待つ。

# Share Happy シェアハピ！

## 【テストを溜めない丸付け術～漢字小テスト編～】

前は、カラーテストの丸付け術を紹介しましたが、今回は漢字小テストの丸付け方法を紹介  
します。昨年度の5年1組の取り組み方です。

※これが決して正しいというわけではなく、あくまでも一つのやり方です。

### (1)テストを始める前に確認すること

①漢字が書けるかどうかのテストなので、新出漢字の部分のみ書けばOK。文章で書く必要  
は無い。

②終わった子から自分で丸付けをして漢字テストファイルに貼って先生に提出

→先生の丸付けチェックを受ける。

③丸付けを間違っていたら**マイナス5点**

④丸付けを間違っていなかったら**プラス5点**

⑤小テストに出た漢字を使って熟語を書けたら一個につき**プラス1点**

⑥テストの目的を伝える。(超大事。繰り返し伝えました。)

→「何ができて何ができないかをわかるためのもの。間違いがわかること、間違いを直  
す  
ことには、正解することと同じくらいの価値がある。本気で丸付けをする。」

### (2)テスト中

①8分間でテストを解く→8分経ったら終わっていない子も全員丸付けに移る

②5分間で丸付けをする→5分経ったら終わっていない子も全員先生に提出する

※早い子は丸付けも込みで5分ほどで持ってきます。早く終わった子には読書、自学、  
係  
活動など、静かに一人のできることを自分で選んでするように指示を出していまし  
た。



### (3) 丸付けチェック時の先生の動き

- ①丸つけにミスが無いチェック→無ければプラス5点
- ②(書いてきた子がいれば)熟語のチェック→一個につきプラス1点
- ③点数を名簿に転記したりしなかったり...

※学年で評価規準に入れていなかったの、途中から転記を止めました。

※テストの点数の推移を確認したかった時は、子供の漢字テストファイルに子供が自分で記入する欄があったのでそこを確認していました。

④一声かけて返す。「前より点数上がったね!」「最近自学がんばってるね!」等。この一声でやる気に火が着く子もいるので、必ず一声かけて返していました。

④ 漢字で書きましょう。は、送られるものを確認しましょう。

① うおいちほのじむしよ。

② こなど、パンこぎつける。

③ はたけをたがやす。

④ けんいしむらをあゆむ。

⑤ しかいごつこめる。

⑥ かいんがじい。

⑦ くさはなのさいしゅう。

⑧ だんじよくゆきがっせんをする。

⑨ ゆたかにみる。

⑩ ほづいなけんこぎとる。

● 答えは、②の②で確かめましょう。

113点

光5・冊4

実際の小テストです。  
丸付けミス無しで+5点  
熟語8個で+8点  
トータル+13点で113点になります。

### (4) この方法で取り組むメリット・デメリット

○早く終わる子、覚えた熟語を書こうとする子、最後まで粘り強く取り組む子、丸つけに時間がかかる子など、子どもの実態によって自然に時間差ができるため、早く終わった子から持って来させてその場でチェックしてその場で返却ができる。集めて丸付けして返却する手間が省ける。

○丸をかく手間が省けるので丸付け(チェック)が速い。

○子供が丸つけを適当にしなくなる。

○普段の小テストから目標を持って取り組む子が増える。

△熟語をたくさん書く子が増えると、逆にチェックに時間がかかる。

### 【終わりに】

ちょっと丸付け術と離れてしまいましたが、テストを受けさせる目的は

①自分ができるところとできないことを理解すること(メタ認知)

②できなかった部分をできるようにすること(復習)

この2点だと思っています。子供が目的を理解した上で、自分自身で丸付けをする機会を増やしてあげるとメタ認知力も高まると思っています(発達段階にもよりますが)。子供が丸付けをした後に先生がその丸付けをチェックするということは一見二度手間に見えますが、こうして日頃から自分で丸付けをし、なぜ間違ったかを分析する習慣を身につくと、どの時間でも適当に丸付けをしたり、間違った部分の答えを丸写しする子がほとんどいなくなります。ただの漢字小テストも、どんな力を身につけさせたいかを考えることで色々な取り組み方が考えられますし、きっと先生方も色々な工夫をされていることと思います。一度交流してみたいですね。

# Share Happy シェアハピ！

## 【算数の適用問題】

みなさんもお存じだと思いますが、算数の教科書にはその時間で学んだことが理解できているかを確認するための適用問題が載っています。



この適用問題ですが、以前は全員同じペースで解いて、一定時間が経過したら全員で答え合わせという方法で扱っていました。このやり方のメリットは、

- ① 一時間の中で全員が全問題に取り組むことができる(正解不正解は別として)
- ② クラス全員が、同じタイミングで次の学習へ進むことができる
- ③ 教師が全員に対して解き方のポイントを説明することができる

等が考えられます。

実は、3-1ではこの適用問題を自由進捗で行なっています。今回は、この方法についてシェアします。以前、ベテランの先生に「もちろん落ちこぼれ(下位層)もケアしないといけな  
いんだけど、浮きこぼし(上位層)もケアしないといけない。上に伸びようとしている子の  
上に蓋をしちゃだめだからね。」と言われたことがきっかけで、どちらも救える方法はないか  
なと考えたものです。

### (1) 事前指導

適用問題の解き方について、年度当初に以下の3点を指導しておきます。

- ・終わったら、教師が丸付けをするので静かに並びに来ること
- ・分からない問題があったら、ワークゾーン(丸付けの列の隣)へ来ること
- ・教え合いをする時は「答えにたどり着くための考え方」を教えてあげること

### (2) 指示の出し方

本時のまとめが終わり、適用問題の時間になったら、

- ・範囲(P.O.Oのツリー1をやりましょう)
  - ・記述する場所(ノートに筆算で、教科書に直接書き込む等)
  - ・丸付けの後(それが終わったらプレテストをやり、計ドを進めます等)
- を指示または板書します。

### (3) つまずいている児童のケア

適用問題につまずいている児童がいた場合、このような方法をとっています。

- ・最初に来た児童Aには、教師が教える  
⇒次に来た児童Bには、「一回、Aさんの説明聞いてみて！それでも分からなかったら、もう一回おいで！」
- ⇒次に来た児童Cには、「一回、Bさんの説明聞いてみて！それでも分からなかったら、もう一回おいで！」



といった感じです。数珠つなぎのように、理解した児童を活用して児童が教えるという方法です。このやり方のメリットとしては、

- ①丸付けが滞らない
- ②一度教師からの説明を受けた児童が、その後理解できているかを確認できる
- ③児童自身が、つまづいた問題の解法をアウトプットできる
- ④誰がどのような問題でつまづいているのかを把握することができる

などがあります。児童は、さっきまで分からなかった問題が解けるようになったわけなので、喜んで別の児童に教えてあげています。



## 【最後に】

3-1では、計ドを予習のために使っています。朝の空いた時間、授業の残り時間、モジュールの時間等を活用し、自分の好きなペースで進んでいます。なので、まだ授業で教えていない問題を解いている子もいます。毎日の宿題として1つ出していますが、すでに終わっている児童がほとんどです。事前指導としては、

- ①宿題で提出する計ドは、いつ終わったものでも構わない
- ②分からない問題を適当に解くことはしない
- ③分からない問題は、「教科書を見る→分かる友達に聞く、または教師に聞く」の順で解いていく
- ④丸付けと解き直しを必ずする

ということです。テスト前の弱点克服の時間になると、もう一度苦手な部分を解き直す子がほとんどなので、実質、予習と復習の2回解いていることになります。このやり方の最大のメリットは、「分からない問題を家で解くことがなくなる」ということです。分からない時の助け(友達・教師)がたくさんいるため、適当に答えを見て済ませるという子がいません。

# Share Happy シェアハピ！

## 【もうすぐクラスが終わる今だからこそ…】

3学期は、本当に過ぎていくのが早いですね。残された登校日数も、あと20日とちょっとになりました。あともう一息ですので、みなさんで声を掛け合って最後まで頑張りましょう！

さて、私が前任校で働いていた際、残り1ヵ月となったこのくらいの時期に、あるベテランの先生から声をかけられました。当時、私は初めて6年生の担任をしていました。

「花岡さん、あと1ヵ月で卒業だね。来年は中学生になるから、私達は関係なくなっちゃうんだけど、だからこそ気合を入れて担任してね！私達は良くも悪くもクラスとは1年契約だから、終わりが見えると『成長できなかったことは来年の先生へ！』って持ち越したくなっちゃうんだけど、それじゃ次の担任が苦労するでしょ。特に6年生だと中学校の先生に迷惑がかかるじゃん？私達にとっては1年契約の子供達なんだけれど、子供たちの人生はまだまだ続くからね。」

なぜこんなに鮮明に言葉を覚えているかというと、その時の私の心情をズバツと見抜かれているような言葉で、これは今後絶対に忘れたくない！と思いつぐにメモをしたからです。確かに、当時の私は「まあ中学校に行ったら成長するでしょ。」「あと1ヵ月だから、あとは来年の先生に…」という甘い考えをもっていました。また、このくらいの時期から若干クラスの雰囲気か乱れているのを感じていました。そんな雰囲気を感じつつも、「まああと1ヵ月だから、大きく荒れなければ大丈夫か。」と自分のクラスさえ安泰ならば…と考えていました(猛省)。

この時期は、来年度担任をする先生、そしてこれからも成長を続ける子供達のことを今まで以上に考えて、子供たちと関わらなければならないのかもしれないかもしれません。そこで今回は、この時期だからこそ今一度私が徹底して指導していることについてご紹介します。考えていて気付いたのですが、これは4月にめっちゃめっちゃ気合を入れて指導していたことであり、昨年度まで北小にいらっしやった西村隆信先生がよく仰っていた「凡事徹底」という言葉とリンクするかと思います。

- ① 全員が名札をつけているかどうか
- ② 時間を守れているかどうか
- ③ 持ち物に乱れがないかどうか
- ④ いじめの傾向になる素振りがいないか(目を合わせてニヤニヤ、手紙交換など)
- ⑤ 担任がいない場で挨拶ができているかどうか
- ⑥ 掃除が落ち着いてできているかどうか

私の感覚だと、3年生くらいまでは「ダメだから、ダメ」「ルールだから」という説得の仕方でも納得してくれる気がします(本当はダメですが...)。ですが、4年生以上になると、どうしてダメなのかを毅然とした態度で伝え、子供たちに納得感を抱いてもらわなければ、上記の観点についてはどんどん乱れていきます。大切なのは、児童の納得感です。

「このくらい、大丈夫か。」というゆるみが、実は学級の大きな乱れに繋がります。名札をしていない児童がいたら、見逃さずにその理由を聞く。そして、名札を付けるところまで見取る。家に忘れたと言ったら、次の日持ってきてつけているかまで見取る。無くしたと言ったら、いつまでに買ってもらえそうか聞く。

年度末の忙しい時期に読むには少々息苦しい文章になってしまいましたが、これからも北小、そして子供たちの成長は続いていきます。全員で同じ方向を見て指導をしていければいいなと思います。